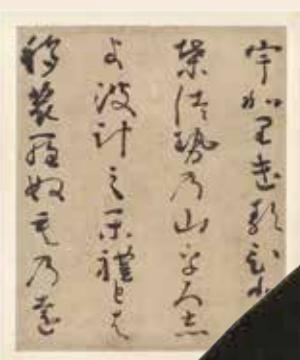


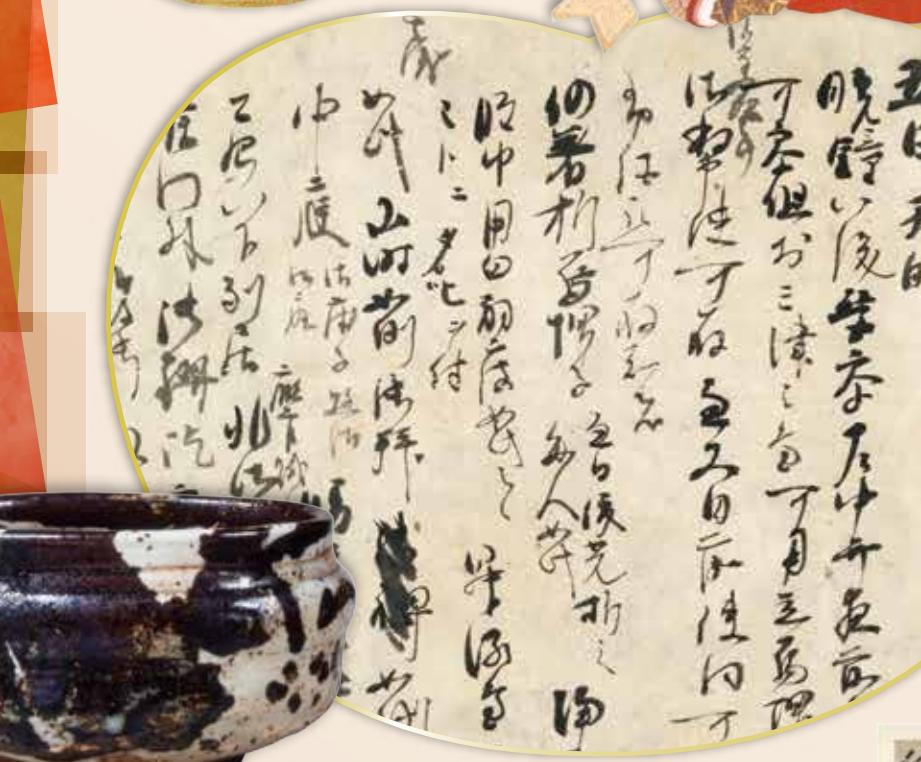
National Treasure A Diary Recording Emperor Gotoba's Pilgrimage to Kumano and Calligraphy by Fujiwara no Teika  
Presented with Tea Utensils, Karuta Playing Cards and Kasen-e Immortal Poet Paintings

# 宝 国 藤原御幸記と熊野定家の書



P R E S S   R E L E A S E

歌仙絵文書に  
かるた  
茶道具



2025

12.6 [土] - 2.1 [日]

2026

三井記念美術館  
Mitsui Memorial Museum



# 国宝 熊野御幸記と 藤原定家の書

## —茶道具・かるた・歌仙絵とともに—

藤原定家筆「国宝 熊野御幸記」を久方ぶりに全巻展示いたします。それに合わせて館蔵品の中から藤原定家の書を選んで展示します。なかでも「大嘗会巻」は、当館では初公開になります。また、定家の歌切や消息、3幅の藤原定家画像も今回が初公開のものです。年末年始にふさわしく、茶道具やかるた・歌仙絵とともに和歌の世界にも遊んでいただきます。

展覧会名	国宝 熊野御幸記と藤原定家の書 —茶道具・かるた・歌仙絵とともに— National Treasure A Diary Recording Emperor Gotoba's Pilgrimage to Kumano and Calligraphy by Fujiwara no Teika Presented with Tea Utensils, Karuta Playing Cards and Kasen-e Immortal Poet Paintings
会期	令和7年(2025)12月6日(土)～令和8年(2026)2月1日(日)
開館時間	10:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	月曜日(但し1月5日・12日・26日は開館)、年末年始(12月27日(土)～1月3日(土))、1月13日(火)、1月25日(日)
主催	三井記念美術館
入館料	一般1,200(1,000)円／大学・高校生700(600)円／中学生以下無料 ※70歳以上の方は1,000円(要証明)。 ※20名様以上の団体の方は( )内割引料金となります。 ※リピーター割引：会期中一般券、学生券の半券のご提示で、2回目以降は( )内割引料金となります。 ※障害者手帳をご呈示いただいた方、およびその介護者1名は無料です(ミライロIDも可)。
会場	三井記念美術館／Mitsui Memorial Museum [〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-1-1三井本館7階] 東京メトロ銀座線「三越前」駅A7出口徒歩1分／東京メトロ半蔵門線「三越前」駅徒歩3分A7出口徒歩1分／ 東京メトロ銀座線・東西線「日本橋」駅B9出口徒歩4分／ メトロリンク日本橋(無料巡回バス)乗降所「三井記念美術館」徒歩1分
読者からの お問い合わせ先	050-5541-8600(ハローダイヤル)
ホームページ	<a href="https://www.mitsui-museum.jp">https://www.mitsui-museum.jp</a>

\*開催内容を変更する場合がありますので、最新の情報は、当館ホームページまたはハローダイヤルにてご確認ください。  
また、展示室内の混雑を避けるため入場制限を行う場合があります。

報道関係の方からの お問い合わせ先	三井記念美術館広報事務局 担当：富樫、大原、松井 TEL:03-6275-0243／080-5443-1112 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町S F1ビル206 E-mail:mitsui@annex-inc.jp
----------------------	---

## 展覧会の趣旨と展示構成

### 趣旨

当館所蔵の6点の国宝の一つ、藤原定家筆「国宝 熊野御幸記」を、開館20周年の年に久方ぶりに全巻を展示いたします。それに合わせて館蔵品の中から後鳥羽上皇と藤原定家の書を選んで展示しますが、なかでも「大嘗会卷」は、藤原道長（966～1027）の時代に活躍した藤原実資（957～1046）の日記『小右記』から長和元年（1012）の大嘗会の記録を定家が筆写したもので、当館では初公開になります。また、定家の歌切や消息、3幅の藤原定家画像も今回が初公開のものです。以上の作品につきましては、蔵品図録『国宝 熊野御幸記と藤原定家の書』を発行いたします。

定家の書といえば、江戸時代以来、小堀遠州などの茶人の間で「定家様」が好まれました。それがうかがえる茶道具や消息なども加えて展示し、さらに定家は和歌の世界で六歌仙や三十六歌仙に選ばれますが、年末年始の展覧会らしく、百人一首かるたや歌仙絵を展示し、最後に重要文化財の東福門院入内図屏風で締めくくります。

なおこの展覧会は、次の開館20周年特別展「生誕1200年 歌仙 在原業平と伊勢物語」とは、和歌と歌仙絵でつながる展覧会といえます。両方の展覧会を観ていただき、日本の古典文学の世界にも親しみを持っていただくことも目的の一つです。

### 展示構成

展示構成は以下のように展示室ごとのテーマで展示いたします。

展示室1：茶人好みの定家様

展示室2：小倉色紙「うかりける…」

展示室3：如庵 茶道具の取り合わせ

展示室4：国宝 熊野御幸記と大嘗会卷、百人一首かるた

展示室5：定家の古筆切・消息、小堀遠州の定家様

展示室6：三十六歌仙団扇形かるた

展示室7：歌仙絵と東福門院入内図

### 主な展示作品

\*:広報用画像貸出作品

### 展示室1：茶人好みの定家様

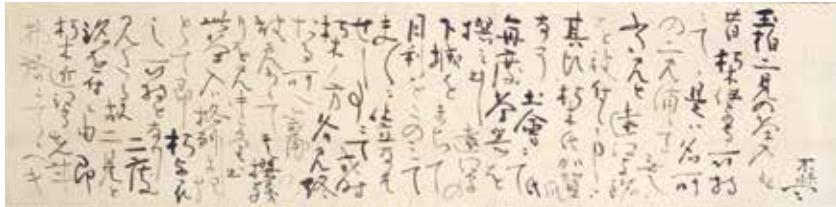
江戸時代初期の大名茶人小堀遠州（1579～1647）は、藤原定家の書を好み、茶道具の箱書などに定家風の書、すなわち「定家様」で和歌をしたため、銘を付け、名物茶道具としての「次第」を整えて後世に伝えました。その遠州に私淑した江戸時代後期の大名茶人松平不昧（1751～1818）は、遠州が見出した名物茶道具を、東山時代の大名物に対し中興名物と称し、今日に至る茶道具の評価を定着させました。

[図1-1] の中興名物 瀬戸二見手茶入（銘二見）は、遠州の箱書で、不昧の書状が添っています。不昧の書体はまさに定家様で、遠州の茶入選びの様子と銘の由来が記されています。



[図1-1] \*

中興名物 瀬戸二見手茶入 銘二見  
1口 桃山～江戸時代・17世紀



[図1-2] \*  
まつだいら ふまい しょじょう  
松平不昧筆書状 二見茶入添幅 1幅 江戸時代・19世纪

[図2] は、同じく中興名物の瀬戸市場手茶入（銘卯花）。これも遠州の箱書ですが、蓋裏に墨書された和歌「うの花のさかりならずば山賊の やまがつ かきねに誰か心とめまし」は、ぼってりとした太い墨線と細い墨線の肥瘦にリズム感がある定家様の字姿が、どこか現代の丸文字にも通じる親しみが感じられます。



[図2-1]  
中興名物 瀬戸市場手茶入 銘卯花  
1口 江戸時代・17世纪



[図2-2]  
卯花茶入の内箱蓋裏墨書

## 展示室2：小倉色紙「うかりける…」

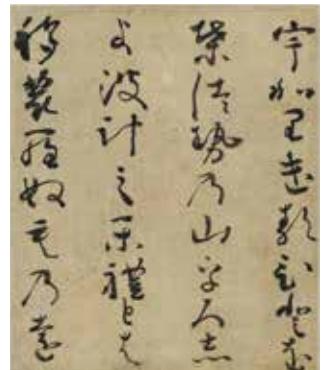
小倉色紙は、藤原定家の日記『明月記』文暦2年（1235）5月に、「嵯峨中院障子色紙形」に天智天皇以下100人の和歌を書いたという記事があり、これが百人一首の小倉色紙とされています。定家の子の為家の妻の父宇都宮頼綱（蓮生）に依頼されたもので、定家は74歳でした。

当館の小倉色紙〔図3〕は、百人一首としては74番の源俊頼の和歌「うかりける人をはつせのやまおろしよ はげしかれとはいのらぬものを」で、この歌は『千載和歌集』に入っています。前田利家・伊達政宗・柳生家を経て三井家に伝わり、18世紀末の松平定信編『集古十種』に三井八郎兵衛所持として図入りで掲載されています。桃山時代以来の伝来の確かさにおいて名品といえます。

## 展示室3：如庵 茶道具の取り合わせ

展示室3は織田有楽斎の茶室「如庵」を写した展示室です。明治41年から北三井家が所有した国宝の茶室で、戦後に名古屋鉄道の所有となり犬山市に移築されました。

ここでは後鳥羽院にちなんだ茶道具の取り合わせです。床には後鳥羽院の和歌懐紙「古郷の草花」、茶碗は御所丸茶碗〔図4〕、茶器は菊桐蒔絵大漿、茶杓は表千家の逢源斎作竹茶杓（銘束帶）、釜は日の丸写釜、水指は備前水指（銘さざれ石）です。



[図3] \*  
小倉色紙「うかりける…」 藤原定家筆  
1幅 鎌倉時代・13世纪



[図4]  
御所丸茶碗 1口 朝鮮時代・17世纪

展示室4：

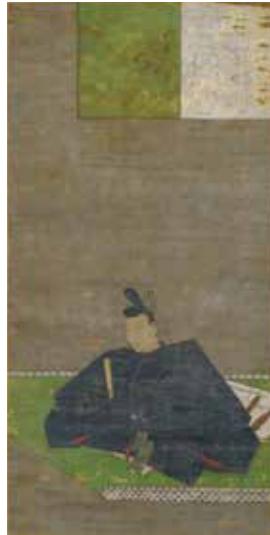
## 国宝 熊野御幸記と大嘗会巻、 百人一首かるた

ここでは最初に初公開の藤原定家画像を3幅展示します。これらは近代になって冷泉家から譲られたもので、いずれも定家の束帶画像です。まず図5の1幅は、似絵の名手藤原信実（1176～1265）の筆として伝わっています。信実は定家の甥ですが、絵自体は江戸初期まで下る写しと思われます。この画像に加え、照高院宮道晃法親王（1612～1679）が写した掛軸【図6】と、土佐光芳（常覚）（1700～1772）が写した掛軸【図7】が3幅1組として伝わっています。

続いて本展覧会のメイン作品、国宝の熊野御幸記【図8】です。建仁元年（1201）10月、後鳥羽上皇の熊野参詣に随行した定家の旅日記です。平成24～26年（2012～2014）の修理後としては、久方ぶりの公開となります。

この御幸記にあわせて、この熊野御幸が行われた前年の後鳥羽上皇の和歌懐紙【図9】を初公開します。この翌年に上皇は和歌所を設け、定家らが撰者となり、4年後に8番目の勅撰和歌集「新古今和歌集」が撰進されます。

正面ケースの円山応挙筆若松図屏風をはさんで、対面ケースには当館としては初公開の大嘗会巻【図10】です。熊野御幸記と大嘗会巻は、今回発行の図録で全巻の翻刻と解説・要約を付していますが、展示でも全巻翻刻文を付します。その後に定家撰「百人一首」の冊子本と山口素絵・鈴木内匠文字のかるとた【図11】を展示しますが、かるたは絵札と文字札を全部展示します。



[図5]

藤原定家画像 和歌色紙形  
1幅 伝藤原信実筆  
江戸時代・17世紀



[図6]

藤原定家画像  
道晃法親王自画贊 1幅  
照高院宮道晃法親王筆  
江戸時代・17世紀



[図7] \*

藤原定家画像  
土佐光芳筆 1幅  
江戸時代・18世紀



[図8] \*

国宝 熊野御幸記 1巻  
藤原定家筆  
鎌倉時代・建仁元年(1201)



[図9]

后鳥羽院和歌懐紙  
「花有歛色」1幅  
鎌倉時代・正治2年(1200)



[図10] \*

大嘗会卷 長和元年記  
1巻 藤原定家筆  
鎌倉時代・12～13世紀



[図11] \*

百人一首かるたより  
山口素絢絵・鈴木内匠文字  
江戸時代・18～19世紀

## 展示室5：定家の古筆切・消息、小堀遠州の定家様

この展示室では、定家の書と「定家様」の典型として小堀遠州の書を展示します。

まずは重要文化財の古筆手鑑「高築」に貼られた定家の古筆切4点と、古筆手鑑「筆林」に貼られた1点に始まり、ケース内壁面には初公開の掛軸6点を展示します。[図12] の定家自詠和歌三首は、もと平戸藩12代藩主の松浦詮（1840～1908）の所持で、昭和6年に新町三井家が入手しています。

後半は小堀遠州の消息で、金森宗和にあてた消息 [図13] など4点に、瀬戸落穂手茶入（銘田面）と、それに添う遠州の和歌小色紙、そして遠州筆達磨絵贊の短冊と、遠州贊の松花堂昭乘筆鳶図 [図14] です。



[図12] \*

藤原定家筆自詠和歌三首 1幅  
鎌倉時代・13世紀



[図13]

小堀遠州筆消息(金森宗和宛) 1幅  
江戸時代・17世紀



[図14]

松花堂昭乘筆鳶図  
小堀遠州贊 1幅  
江戸時代・17世紀

## 展示室6：三十六歌仙団扇形かるた

小さな展示室では、三十六歌仙のかかるた [図15] を展示しますが、珍しい団扇形の札に絵と和歌を記しています。



[図15]  
三十六歌仙団扇形かるたより  
江戸時代・18～19世紀

## 展示室7：歌仙絵と東福門院入内図

展示室6の三十六歌仙かるたに続き、展示室7でも歌仙絵にこだわります。3点の歌仙帖のうち、<sup>と さ みつおき</sup>土佐光起筆の女房三十六歌仙帖〔図16〕は周知の名品ですが、他の2点の六歌仙帖と三十六歌仙帖は初公開です。

歌仙帖は歌人の絵と和歌色紙がセットになった折本の帖仕立てです。特に三十六歌仙帖は表と裏の両面に貼られています。そのため展示には表か裏どちらか半分しか展示できません。それでも、18人の絵と和歌色紙の展示はそれなりのスペースをとります。今回はそれぞれ表面の展示となります。

〔図17〕の住吉広純（具慶）筆の六歌仙帖は、6人ですから表だけですが、古今和歌集時代の六歌仙（在原業平・僧正遍照・喜撰法師・大友黒主・文屋康秀・<sup>おののこまち</sup>小野小町）とは違い、新古今和歌集時代の新六歌仙（藤原良経・慈鎮・藤原定家・藤原俊成・藤原家隆・西行）です。

〔図18〕の和歌が伝鷹司兼熙筆の三十六歌仙帖は、藤原公任（966～1041）が選んだ三十六人集とは違い、これも後鳥羽院・定家などが入った新三十六歌仙です。

そして最後は、日本独特の和歌の文化を育んだ宮中内裏への入内を描いた東福門院入内図屏風〔図19〕で展示を締めくくります。



〔図16〕\*  
女房三十六歌仙帖より紫式部  
と さ みつおき  
土佐光起筆 江戸時代・17世紀



〔図17〕  
六歌仙帖より藤原定家 住吉広純(具慶)筆  
江戸時代・17～18世紀



〔図18〕  
三十六歌仙帖より後鳥羽院 (和歌)伝鷹司兼熙筆  
江戸時代・17～18世紀



〔図19〕\*  
重要文化財 東福門院入内図屏風 4曲1双 江戸時代・17世紀

# 国宝 熊野御幸記と藤原定家の書

—茶道具・かるた・歌仙絵とともに—

## 展覧会広報用画像について

展覧会の広報用貸出画像データ／読者プレゼント招待券をご希望される方は、下記ご確認の上お申し込みください。

- \* 画像は展覧会の広報用としての使用に限らせていただきます。展覧会終了後の利用、また二次利用はお断りしております。
- \* 画像掲載にあたっては、【記載クレジット】を必ずご記載ください。
- \* Webサイトで掲載の場合は、必ず画像にコピーガードをかけてください。
- \* 読者プレゼントの際には作品画像を掲載し、展覧会会期中にご紹介ください。またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴社、貴編集部にてお願ひいたします。
- \* ご掲載紙・誌等は広報事務局までご送付ください。

〔貸出画像リスト〕 作品掲載にあたっては下記の情報をご明記ください			
図 1-1 中興名物 濑戸二見手茶入 銘二見 1口	桃山～江戸時代・17世紀	三井記念美術館蔵	
図 1-2 松平不昧筆書状 二見茶入添幅 1幅	江戸時代・19世紀	三井記念美術館蔵	
図 3 小倉色紙「うかりける…」 藤原定家筆 1幅	鎌倉時代・13世紀	三井記念美術館蔵	
図 7 藤原定家画像 土佐光芳筆 1幅	江戸時代・18世紀	三井記念美術館蔵	
図 8 国宝 熊野御幸記 1巻 藤原定家筆	鎌倉時代・建仁元年(1201)	三井記念美術館蔵	
図 10 大嘗会卷 長和元年記 1巻 藤原定家筆	鎌倉時代・12～13世紀	三井記念美術館蔵	
図 11 百人一首かるたより 山口素絵・鈴木内匠文字	江戸時代・18～19世紀	三井記念美術館蔵	
図 12 藤原定家筆自詠和歌三首 1幅	鎌倉時代・13世紀	三井記念美術館蔵	
図 16 女房三十六歌仙帖より紫式部 土佐光起筆	江戸時代・17世紀	三井記念美術館蔵	
図 19 重要文化財 東福門院入内図屏風 4曲1双	江戸時代・17世紀	三井記念美術館蔵	
読者招待券	5組10枚まで受付	※申し込み受付は 2025年12月5日まで	

### お申し込み方法

当館ホームページ「プレスの方へ」ページの申込フォームに必要事項を入力し、お申し込みください。

入力いただいたアドレスに広報事務局よりメールをお送りします。



三井記念美術館ホームページ「プレスの方へ」ページ  
<https://www.mitsui-museum.jp/press/press.html>

プレス関係の方からの  
お問い合わせ先

三井記念美術館広報事務局 担当:富樫、大原、松井 TEL:03-6275-0243 / 080-5443-1112  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町SF1ビル206 E-mail:mitsui@annex-inc.jp